

# 地域の子どもは地域で育つ

## 一人と人がつながった支援

### 香美市教育支援センター

#### 「ふれんどるーむ」

市内のどの地域でも、人口減少と高齢化が進んでいます。そして、住民の出入りが多くなり地元との関わりは、ますます希薄になってきているように思います。子どもたちへの新たな教育課題として、保護者の養育上の問題が目立つようになってきました。このことが原因となり登校できなくなった子どもたちが増えています。この課題へ今まで取り組んできたことを紹介します。

#### 《子どもたちの欠席状況調査を実施》

この調査から、連続して休んでいる子どもたちには、家庭訪問を実施し、カウンセリングや生活指導等の中から状況の把握を行い、長期化の防止に努めてきました。

学校に行けないが「ふれんどるーむ」に来られる子どもには、子どもの状況により教科指導等を実施し、自信の回復に努めました。その結果、数名の児童生徒が学校へ復帰することができました。

#### 《不登校児童生徒および

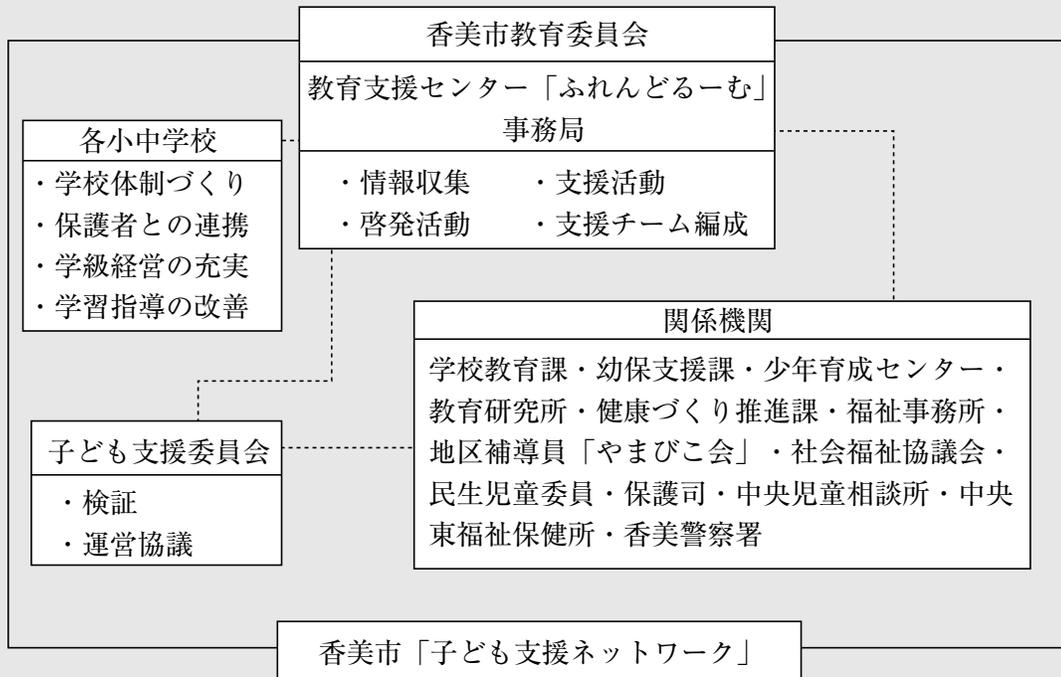
#### 保護者への支援》

「ふれんどるーむ」では、当センターの指導員が連携調整、教育相談など青少年育成活動に関わってきました。

また、学校の機能を超える家庭の問題に対しては、関係機関と連携して支援チームを編成して取り組んできました。

### 子ども支援ネットワークの活用

地域の子どもたちを、いつも見守る体制を整えてきました。  
また、関係機関の機能を生かした学校支援体制も整えてきました。





《ケース検討会》

《ひとつの機関の限界を超える課題》

虐待などのようにいろいろな要素が絡んでくる場合は、一機関の活動だけでは限界があります。このようなときは、いくつかの機関の機能を生かしたサポートチームを編成して支援します。

昨年もサポートチーム編成に向けたケース検討会を数回実施してきました。

《地域や関係機関への啓発》

教育支援センター「ふれんどーむだより」を発行し、子どもや親の課題等を含め家庭教育の重要性を知らせてきました。

地域のミニ集会にも出向き、「地域の子どもたちは地域で育てる」ために、人の温もりを子どもたちにも伝えようと啓発してきました。まず、子どもたちに対して、いつでも、誰でもできる「おはよう」「おやすみ」「さようなら」などのあいさつから、積極的に関わってほしいとお願いしました。

このような活動を続けている内に、各地域で少しずつ変化してきたことを紹介します。

〔一年目は〕

ほとんどの地域で、「中学生に声をかけるのは、圧迫感を感じる」「怖い」そんな返事が多くありました。

〔二年目は〕

「声をかけると子どもからうつつうしいという顔をされていやな感じだった」「声をかけるとすぐに返事が返ってきて、中学生もかわいらしい」という二つの意見に分かれました。

〔三年目は〕

「怖い」という声はほとんど聞かれなくなりました。ある地域では成功事例まで出てくるようになりました。

〔例〕おばあさんが、近所の不登校の子どもに声をかけ続けているうちに、子どもから小さな声が返ってくるようになりました。昼食の世話を時々してやると子どもは心を開き、立ち直っていききました。

このような地域の力のすばらしさに触れることができました。



〔四年目は〕

地域の力のすばらしさを、他の地域にも伝えることができました。

〔今後は〕

支援を必要とする子どもたちや家庭に対して、特定の機関だけで抱えるのではなく、地域の教育力を活用して進めます。

また、家庭の課題については、引き続き各関係機関の機能と結びつけたサポートチームを編成して支援し、明るい地域社会を築いていきます。

《教育相談活動》

来所・訪問・電話などの方法で教育相談活動をしています。来所できる子どもたちには、カウンセリングから教科指導まで実施しています。子育て等で困ったとき、「家庭だけで」とか「一人でなんとかしよう」と抱え込むことなく、誰かどこかの機関に相談しましょう。

【ふれんどーむの連絡先】  
香美市土佐山田町東本町  
2-1-20  
(市立中央図書館2階)  
☎ 53-11096